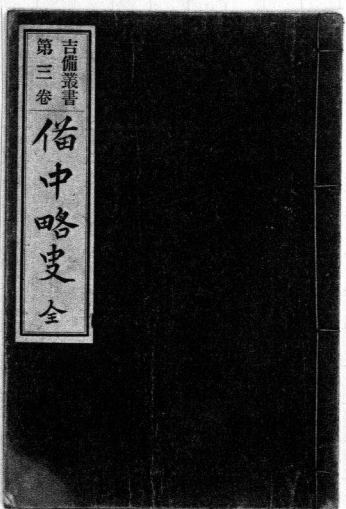


奥田樂次 おくだ ぎよつぐ 儒者。文政四年備中國生れ、明治十七年七月二十四日没（二八二一八四）。幼名恒之進。高梁藩藩醫龍田道仙の次子、藩儒奥田樂山の養嗣子となる。山田方谷の文を學び、横矢南山に就く南畫を修む。藩主板倉勝靜の近習小姓より文武監査役の進む。晩年下道郡山田村に下居、『備中略史』(明治二十一年十一月三十日岡山・小橋藻二衛、南爲寺、野吹秀太郎刊「吉備叢書」)を著した。



吉備叢書  
第三卷

備中略史  
全